

重要！！

気象警報の名称などが変わります

背景

令和6年6月に取りまとめられた「防災気象情報に関する検討会」の提言を踏まえ、令和8年5月29日頃から新たな防災気象情報の運用を開始します。

これにより、気象警報と警戒レベルの整合がとれ、必要な避難行動が分かりやすくなります。

警戒レベルと行動

町から警戒レベル4避難指示や警戒レベル3高齢者等避難が発令された際には速やかに避難行動をとってください。

また、避難指示等が発令されていなくても、警戒レベル4や警戒レベル3に相当する防災気象情報が発表された際には、キキクルや河川の水位情報などを使って自ら避難の判断をしてください。

令和8年5月下旬より
気象の警報などが大きく変わります

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

△気象庁ホームページより

避難のタイミングは レベルで判断

災害が起きる前に何をすべきか、
レベルごとにチェック！

時間推移のイメージ	レベル	内容
数日～1日前	レベル1 早期注意情報	・災害への心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認する
半日～数時間前	レベル2 注意報	・ハザードマップ等で災害リスクを再確認する ・自治体から発表される避難情報の把握手段を再確認する
数時間～3時間前	レベル3 警報	・避難に時間がかかる 高齢者等は危険な場所から避難する ・高齢者等以外の人も必要に応じて避難の準備や自主避難
2時間～0時間前	レベル4 危険警報	・危険な場所から 全員避難する ※台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了
災害発生	レベル5 特別警報	・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況 ・今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する

△気象庁ホームページより

◆警戒レベル3 高齢者等避難

避難に時間のかかる人は危険な場所から安全な場所に避難する。

◆警戒レベル4 避難指示

危険な場所から全員安全な場所に避難する。

◆警戒レベル5 緊急安全確保

今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。

気象庁ホームページの特設ページでは、新たな防災気象情報に関するさまざまな資料を掲載しています。これらの資料を参考に、情報が発表された際にどのような行動をとるか、家庭や企業・組織内であらかじめ決めておきましょう。



新たな防災気象情報に関する気象庁特設ページ



日頃の備えが大事っちゃ！

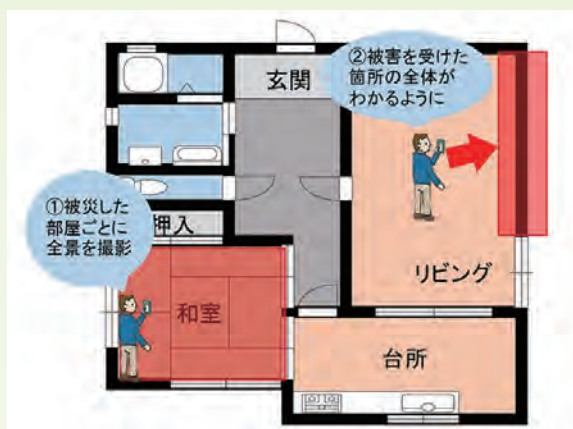
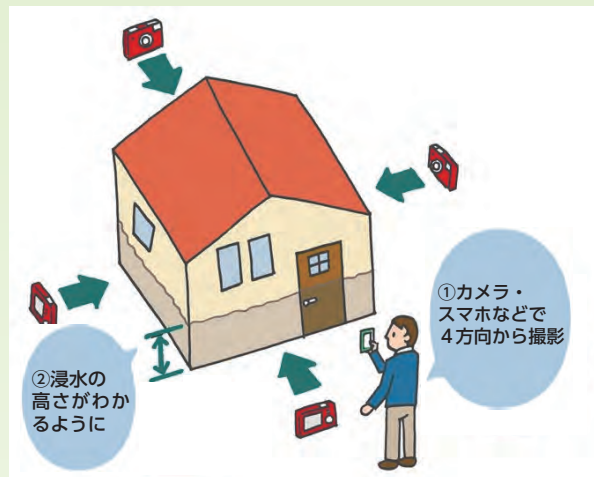
住まいが災害により 被害を受けたとき最初にとすること

修理の前に被害状況を写真で記録しましょう

片付けや修理の前に、家の被害状況を写真に撮って保存しておきましょう。
町から「り災証明書」を取得して支援を受ける際や、保険会社に損害保険を請求する際などに、必要な場合があります。

家の外の写真の撮り方

- ①カメラ・スマホなどでなるべく**4方向から撮る**ようにしましょう。
 - ②浸水した場合は、浸水の深さが分かるように撮りましょう。
- ※メジャーなどをあてて「**遠くから**」と「**近くから**」の写真をとると、被害の大きさが良く分かります。
- ※門扉、カーポート、店舗、車、テレビアンテナなども撮っておきましょう。



家の中の写真の撮り方

- ①被災した**部屋ごとの全景写真**
- ②被害箇所の「**近くから**」の写真を撮影しましょう。

<想定される撮影箇所>

内壁、床、窓、出入口、サッシ、襖、障子、システムキッチン、洗面台、便器、ユニットバス など

ポイント

- ①人が横に立つ、物差しやメジャーをあてるなど、浸水の深さが分かるようにします。
- ②被害を受けた部屋・箇所は**全て撮影**しましょう。

大切なのは、家の外と中の写真を撮ることです。

※多めに撮っておきましょう。



△屋外の浸水跡が分かる写真



△屋内の浸水跡が分かる写真

▷問い合わせ 庶務係 (☎ 2 2 3 - 3 5 7 2)